

## EU離脱について英国首相が演説 ～真にグローバルな英国をめざす～

英国のメイ首相は17日に演説を行ない、EU(欧州連合)離脱に関する基本方針を示し、EU単一市場から完全撤退を表明しました。離脱によって産業界が懸念するようなネガティブな状況にはならないとの見方を強調したことなどを受けて、これまで大きく下げている英国ポンドは、対米ドルや対ユーロで大きく反発しました。

メイ首相は演説で、「単一市場に残れば、EUの影響を受け続ける。それではEU離脱ではない」と述べ、移民規制や国境管理などを優先することを表明する一方、離脱後にEUと包括的な自由貿易協定(FTA)の締結交渉を行ない、製造業や金融業がEU単一市場に最大限アクセスできることをめざすとしました。また、EU域内の無関税の取引を続けるためには、関税に関する新たな合意のほか、離脱後の混乱を避けるためには一定の移行期間を設けることが必要と語りました。今後については、今年3月末までに離脱を正式にEUへ通知し、EUおよび各国との交渉がスタートする予定です。EUとの交渉期間は原則2年となり、今回の演説で述べられた点なども取り決められるとみられます。EUとの最終的な合意内容については、英国上下両院で採決された後、19年春までにEUから離脱するとみられます。

ただし、EU側は、英国だけを特別扱いはないとみられており、交渉は難航が予想されます。そのため、離脱交渉が長引けば、英国経済への不透明感が高まり、投資資金が流出する可能性もあります。先日発表されたIMF(国際通貨基金)の経済見通しでは、離脱に伴う景気下押し圧力により、2018年の英国の経済成長率は1.4%と0.3ポイント下方修正されました。また、英国はEU内でドイツに次ぐ経済規模を誇り、輸出の約47%がEU向けを占める一方、輸入の約54%がEUからとなっていることなどから(ともに15年)、離脱によって貿易が縮小すれば、英国とEUの相互の経済に影響があるとみられます。

演説時の演台に「A Global Britain」とあったことに象徴されるように、英国は欧州だけでなく、世界の国々と自由貿易を発展させる方針と考えられます。メイ首相が演説で述べたように、秩序だったEU離脱は、「英国だけでなくEUの利益につながる」のか、さらに、「真にグローバルな英国」への第一歩になるのか、今後の交渉の行方が注目されます。

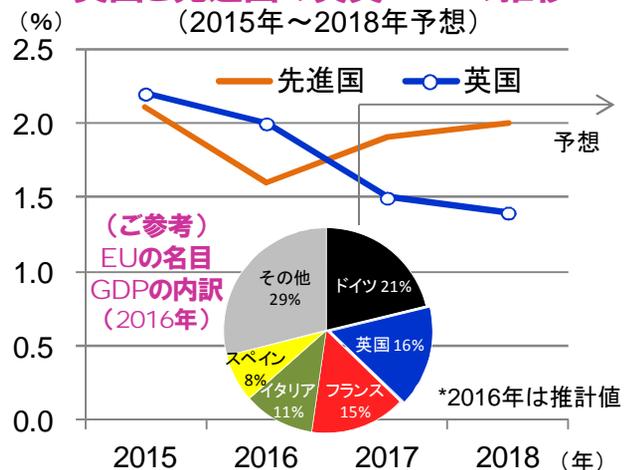
### 英国ポンド(対米ドルと対ユーロ)の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

### 英国と先進国の実質GDPの推移



(出所) IMF「WEO Update, January 2017」、  
名目GDPの内訳は「WEO, October 2016」

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。